

## 院内認定 重症心身障害児（者）専門看護師になって



のぞみC病棟副看護師長 藤沢春美

私が重症心身障害児（者）看護を行いたいと思ったきっかけは、中学1年生の時にあった養護学校との交流学习にさかのぼります。しかしその時は、どのように接したらよいかわからず、「苦手だな」という印象だけが強く残りました。その後看護学校に入学し、初めての実習場所は重心病棟！実習に行く前は不安で一杯でした。でも何もできないと思っていた患者さんの純真な笑顔を見て心が洗われました。また、一人一人の患者さんの特徴を理解して接している看護師さんの姿からは、患者さんと向き合う大切さを学びました。そして、懸命に生きている患者さんを支える看護をしたいと思うようになりました。



< 緊張の強い患者さんとの思い出 >  
Aさんは緊張が強く冬でも汗をかき、夜でもカセットで昔話を聞いている患者さんでした。そんなAさんは抱っこをしても始めは全身に力を入れ緊張してしまうのですが、ゆったりとした気持ちで話しかけているうちにフッと力が抜け、しばらくすると最高の笑顔を見せてくれました。私が患者さんと関わる中で、一番嬉しく、やりがいを感じる瞬間です。

高齢化していく患者さんに対し、今の機能を維持しつつ、豊かな生活を送るための援助をしていきたいと思えます。



重症化する患者さんの看護には、専門的な知識や技術も身に付けていかなければなりません。

### ゆっくり あせらず ていねいに

重症心身障害児（者）は自分では何もできないと思われがちですが、そうではありません。反応はゆっくりで、時としてわかりにくいこともあります。だからこそ何ができるのかを見つけ、できることを伸ばしていくことが大切だと思います。障害を持って生まれてきたけれど、持っている機能を精一杯に活かし、たくさんの笑顔や笑い声を引き出せるような関わりをしたいと思えます。「ゆっくり あせらず ていねいに」患者さん一人一人に向き合う看護を目指していきたいと思えます。



